

令和6年第9回
教育委員会定例会教育長報告

令和6年9月18日(水)

- | | | |
|---|-----------------------------------|-----|
| 1 | 令和6年第3回市議会定例会一般質問対応状況について | 資料1 |
| 2 | 令和5年度 学校保健統計書について | 資料2 |
| 3 | 令和6年度 全国学力・学習状況調査 武蔵村山市版結果報告書について | 資料3 |
| 4 | 令和6年度武蔵村山市立学校研究発表会について | 資料4 |
| 5 | 第19回地区ふれあいスポレク大会の開催について | 資料5 |
| 6 | 第51回武蔵村山市民駅伝競走大会の開催について | 資料6 |
| 7 | その他 | |

令和6年第3回市議会定例会一般質問対応状況について

質問者	質問事項	質問要旨	答弁要旨
1 石黒議員 (公明党)	スケートボードなど「B3スポーツ」ができる場所について	近年、スケートパーク施設を設置している自治体が増えている。施設以外での練習が困難なスポーツのため、本市にも練習できる場所を設置できないか伺う。	スケートボード、BMX、インラインスケートの英語の頭文字をとった「B3スポーツ」に対応できるスケートパーク施設の設置につきましては、市内の競技人口の把握が難しいことや用地の確保及び整備費用などの課題があること、また、利用時に発生する音による近隣住民への影響などの課題も多く、現時点での設置は難しいと考えております。
	アーバンスポーツの普及促進について	東京2020、パリ2024と新たなアーバンスポーツの競技がオリンピック種目に追加されてきた。これらスポーツの普及促進に向けた本市の考えについて伺う。	B3スポーツをはじめ、バスケットボールの3×3（スリーエックススリー）やスポーツクライミングといった新しいスポーツであるアーバンスポーツにつきましては、都市を舞台とした競技種目として注目を集めていると認識しております。 アーバンスポーツなどの普及促進につきましては、現在、考えておりませんが、これらの新しいスポーツのうち、eスポーツの1つであるARスポーツにつきましては、スポーツ都市宣言の10周年記念事業といたしまして、令和6年10月に「ARスポーツ体験会」を開催する予定でございます。
2 前田議員 (公明党)	学校規模の適正化	①通学区域再編の検討状況と今後の考えについて伺う。	小・中学校における通学区域につきましては、各区域の人口や道路の地理的状况等を踏まえて設定しているところでございます。 今後、多摩都市モノレールの延伸により、人口動態等が大きく変化することが想定されるため、時期を捉えて検討したいと考えております。
		②指定校変更の現状と今後の考えについて伺う。	市内転居や小中一貫校への就学等を理由とする指定校変更につきましては、保護者からの申立てを受け、武蔵村山市立学校の指定に関する規則に定める基準により、承諾しているところでございます。 現在、この指定校変更により、一部の小学校において児童数に偏りが生じていることから、学校規模の適正化を図

質問者	質問事項	質問要旨	答弁要旨
2 前田議員 (公明党)	学校規模の適正化		るため、これらの基準について市内の関係部署の職員や小・中学校の校長で組織する検討委員会において、検討を進めているところでございます。
3 内野和典議員 (新政会)	eスポーツについて	<p>東京市町村自治調査会から、eスポーツの可能性に関する調査研究報告書が今年発行された。</p> <p>市における活用の可能性について改めて考えを伺う。</p>	<p>東京市町村自治調査会の報告書によりますと、eスポーツには、年齢や性別、障害の有無によらず楽しめるインクルーシブ性があり、この特性は「高齢者福祉」や「共生社会の実現」などの分野に活用できるとして、取り組む自治体があるとしております。</p> <p>しかしながら、未実施の自治体では、実施スキーム・方法に関するノウハウ不足、対応できるステークホルダーがないなどの課題があるとのことでございます。</p> <p>eスポーツに関するノウハウ不足などの課題を補うため、ARスポーツ専門のスキルを持つ事業者へ業務委託し、スポーツ都市宣言の10周年記念事業といたしまして、令和6年10月に「ARスポーツ体験会」を開催する予定でございます。</p>
4 大野議員 (新政会)	総合体育館の建物や設備等の管理について	①今後の総合体育館の補修計画について伺う。	<p>総合体育館につきましては、平成14年に建築されたため、雨漏りへの懸念や外壁のひび割れ、館内設備の経年劣化が進んでいる状況でございます。</p> <p>適宜、修繕は行っておりますが、令和4年度には屋上防水工事を施工し、今後は、外壁工事等を予定しておりますが、市の全体計画の中で検討してまいりたいと考えております。</p>
		②補修する場合の具体的な補修方法について伺う。	<p>外壁工事の具体的な補修方法につきましては、ひび割れを専用樹脂で埋め、全面にコンクリート色の塗装を施すことや鉄製扉などの塗装を行います。</p> <p>また、吸収式冷温水発生器などの館内設備につきましては、機械を細かく分解して洗浄し、劣化した部品等は交換を行うなどの方法がございます。</p>
		③劣化の進んだベンチや遊具の対応について伺う。	<p>総合体育館を含む体育施設につきましては、修繕費用が50万円未満の場合は、指定管理者が行うこととなっておりますので、緊急性が高いなど、優先順位を確認しながら対応しているところ</p>

質問者	質問事項	質問要旨	答弁要旨
4 大野議員 (新政会)	総合体育館の建物や設備等の管理について		ろでございます。
5 須藤議員 (公明党)	不登校対策について	①不登校児童・生徒の数とその支援策。	本市独自の調査では、令和5年度における不登校児童数は95人、不登校生徒数は165人でした。各校、不登校担当コーディネーターを中心に、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーを活用しながら、組織として個々への支援に努めております。
		②チャレンジクラスの状況と定員増への見解。	チャレンジクラスの在籍者数につきまして、令和6年7月末日現在で14人であり、4月当初と比較して3人増でございます。今後も増加することが見込まれます。
		③学校以外の居場所の現状。	学校以外の居場所ですが、適応指導教室では、令和6年7月末日現在で11人の児童・生徒が通室しております。フリースクールについては令和6年3月末日現在で7人が活用しております。また、児童養護施設れんげ学園が運営する居場所事業「ぶらんこ」の協力も得ておりますが、現在こちらを利用している児童・生徒はおりません。
		④バーチャルラーニング導入の進捗について伺う。	バーチャル・ラーニング・プラットフォームにつきましては、令和6年7月から運用を開始し、5人の児童・生徒にアカウントを配布しております。
6 波多野議員 (新政会)	学校教育の現況について	4月から第三中学校にチャレンジクラスが開設された。現在の様子と、都は不登校施策に力を入れているが、チャレンジクラス以外の本市の状況について伺う。	チャレンジクラスには、令和6年7月末日現在で14人の生徒が在籍しており、家庭以外の居場所として、学力定着に向けた取組、登校日数の増加に向けた取組、校外学習や体験学習の実施等を行っております。 また、不登校児童・生徒への支援の充実に向け、本市では適応指導教室、アウトリーチ型支援、東京都不登校施策に係る事業として、バーチャル・ラーニング・プラットフォーム、不登校対応巡回教員、校内別室指導支援員による支援を行っております。

質問者	質問事項	質問要旨	答弁要旨
7 藤枝議員 (日本共産党)	公共施設のトイレの改善について	公共施設のトイレは、悪臭や段差が怖いなど、対策強化を求める声が寄せられている。 ①地区会館のトイレについて伺う。	地区会館のトイレにつきましては、日常清掃及び定期清掃等を行っており、悪臭がある場合には、その都度、清掃や換気、消臭剤の交換等により対応しております。 また、各地区会館は、昭和48年から昭和61年にかけて建設されているため、トイレに段差がございますが、同一フロア又は同一建物内にバリアフリートイレを設置しております。
8 田村議員 (日本共産党)	学校で、猛暑から子どもたちを守る対策について	①この夏、熱中症になった児童・生徒の人数。その対応及び救急搬送はあったのか。	令和6年8月末日現在で、熱中症の症状が見られ、救急搬送した人数は小学校は0人、中学校は1人で行いました。救急搬送までの応急処置としましては、氷嚢を脇の下に当て、身体冷却を行う等の対応を図りました。
		②冷房機器以外の暑さ防止対策は。	暑さ対策としましては、冷房機とともに扇風機やサーキュレーターを使用しております。また、水筒の持参をさせております。
		③プールの実施状況。	学校プールにつきましては、暑さ対策の一環として令和5年度から小学校では使用期間を1学期中としておりますので、御理解を賜りますようお願いいたします。

学校保健統計書

令和 5 年度

令和 6 年 9 月

武蔵村山市教育委員会

目 次

I 定期健康診断計測結果

- 1 学年別身長・体重の平均値・・・・・・・・・・ 1
 - (1) 令和5年度
 - (2) 平成19年度から令和4年度まで

II 疾病異常等調査結果

- 1 学年別疾病異常被患者数・・・・・・・・・・ 4
- 2 学校感染症等による出席停止者数・・・・ 6
- 3 就学児童疾病異常被患者数・・・・・・・・ 8

III 各種検診検査結果

- 1 心臓検診検査結果・・・・・・・・・・ 9
- 2 尿検査結果・・・・・・・・・・ 12

I 定期健康診断計測結果

1 学年別身長・体重の平均値

(1) 令和5年度

校種	区分 男 女別 学年	身 長 (c m)		体 重 (k g)		
		男	女	男	女	
		小 学 校		1 年	116.4	116.1
		2 年	123.3	121.4	25.2	23.6
		3 年	128.3	127.9	28.0	27.2
		4 年	133.5	134.0	31.3	30.9
		5 年	139.2	141.0	35.2	36.0
		6 年	146.1	147.0	40.7	40.4
中 学 校		1 年	153.2	152.7	44.9	45.7
		2 年	160.6	154.3	50.9	47.1
		3 年	165.6	156.3	55.1	50.2

(2) 平成19年度から令和4年度まで

① 身長

(単位：cm)

校種	年度 男女別 学年	平成19		20		21		22		23		24		25		26	
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
		小学校	1年	116.6	115.2	116.4	115.5	116.4	115.1	116.3	115.9	116.6	115.1	116.2	115.0	116.6	114.8
2年	122.1		120.9	122.3	121.4	122.1	121.3	122.7	121.1	122.1	121.7	122.6	121.4	122.2	121.0	122.6	120.7
3年	128.2		127.3	127.7	126.8	128.2	127.0	127.6	126.9	127.9	126.4	127.8	127.4	128.2	127.0	127.9	126.6
4年	133.8		133.7	133.6	133.0	132.9	132.5	133.4	132.9	132.8	132.8	133.3	132.7	133.2	133.4	133.5	133.2
5年	138.6		139.4	138.7	140.4	138.6	139.5	138.2	139.2	138.4	139.5	137.9	139.3	138.6	139.0	138.4	140.0
6年	144.8		146.8	144.8	146.5	145.1	147.4	144.6	145.8	144.2	146.0	144.8	146.1	144.0	145.8	144.6	145.6
中学校	1年	152.2	151.2	152.3	152.0	152.0	151.9	150.2	152.3	152.2	150.8	152.2	151.4	152.5	151.2	151.5	151.5
	2年	159.2	155.1	159.3	154.4	160.1	155.3	159.0	154.9	159.3	154.9	159.6	154.2	159.8	154.0	160.6	154.2
	3年	165.1	156.9	165.4	157.2	164.9	156.0	165.2	156.7	165.7	156.5	164.9	156.5	165.0	155.6	165.1	156.2

校種	年度 男女別 学年	27		28		29		30		令和元		2		3		4	
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
		小学校	1年	116.2	115.4	115.8	114.8	115.9	115.8	116.2	115.0	115.9	115.8	117.4	116.6	116.4	115.4
2年	122.1		121.2	122.0	121.6	121.8	120.8	121.8	121.9	122.1	120.6	123.2	123.0	122.2	121.4	122.6	121.5
3年	128.2		126.6	127.6	126.9	127.7	127.2	127.9	126.7	127.5	127.8	129.5	128.3	127.8	127.9	128.0	127.8
4年	133.2		132.4	133.3	132.4	133.0	132.9	133.0	133.2	133.2	132.6	134.1	135.4	133.9	133.5	133.3	134.6
5年	139.0		139.9	138.6	139.0	138.2	139.0	138.5	139.7	138.3	139.6	140.1	141.3	138.8	141.3	139.8	140.5
6年	144.2		146.6	145.3	146.5	144.6	145.9	144.9	145.7	144.2	146.3	146.3	148.0	145.6	146.6	145.2	148.0
中学校	1年	152.3	151.0	152.0	151.8	152.5	152.0	152.4	151.6	152.6	151.1	154.2	152.5	152.8	151.9	153.7	151.6
	2年	158.9	154.9	159.9	154.4	159.6	154.9	160.5	154.9	159.7	154.5	161.8	154.8	160.1	154.6	160.5	154.8
	3年	165.4	156.0	164.5	156.5	165.2	155.8	165.5	156.4	165.6	156.3	166.5	156.6	165.7	156.1	165.9	156.2

② 体重

(単位：kg)

校種	年度 男女別 学年	平成19		20		21		22		23		24		25		26	
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
		小学校															
小学校	1年	21.6	20.9	21.5	21.0	21.4	21.2	21.5	21.4	21.7	21.0	21.6	20.8	21.7	20.6	21.1	20.8
	2年	23.7	23.1	24.3	23.6	24.0	23.2	24.1	23.8	24.0	24.0	24.5	24.0	24.1	23.2	24.4	23.0
	3年	27.6	26.4	26.9	26.2	27.5	27.0	26.8	26.3	27.2	26.7	27.2	27.0	27.4	26.7	27.2	26.0
	4年	31.0	30.5	31.2	29.9	29.6	29.5	30.5	30.0	29.9	29.7	30.3	30.2	30.3	30.3	30.9	30.1
	5年	34.2	33.9	35.0	35.0	34.5	33.7	33.6	33.8	34.3	34.0	33.6	33.9	33.8	34.2	33.8	34.3
	6年	38.9	39.9	38.9	39.3	39.3	40.0	38.9	38.7	37.8	38.8	38.7	38.9	37.7	38.3	38.3	39.4
中学校																	
中学校	1年	43.8	43.6	44.7	44.6	43.9	43.7	44.1	44.6	44.6	42.7	43.7	43.1	44.5	42.7	42.4	43.2
	2年	48.8	48.2	49.6	46.7	50.7	48.1	48.7	47.6	50.0	47.9	50.3	46.4	49.0	46.6	49.2	46.6
	3年	55.0	50.0	54.8	50.2	54.1	49.2	55.0	51.3	54.7	50.0	55.2	50.4	55.7	48.7	53.4	49.5

校種	年度 男女別 学年	27		28		29		30		令和元		2		3		4	
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
		小学校															
小学校	1年	21.2	21.2	21.3	20.7	21.1	21.6	21.6	20.9	21.2	21.1	21.9	21.3	21.6	21.2	22.1	21.0
	2年	23.8	23.6	23.9	23.9	23.9	23.3	23.8	24.2	24.3	23.4	24.9	24.3	24.3	23.7	24.7	23.9
	3年	27.5	25.9	27.0	26.8	26.8	26.8	27.4	26.4	26.8	27.3	29.1	27.4	27.6	27.1	27.9	28.2
	4年	30.3	29.2	30.9	29.4	30.2	30.1	30.4	30.4	30.6	29.7	31.8	32.1	32.2	31.0	31.6	31.3
	5年	34.5	34.0	34.3	33.5	34.4	33.8	33.8	34.4	33.5	34.3	36.4	35.1	34.8	35.7	36.4	35.4
	6年	37.9	39.3	39.0	39.0	38.4	38.1	39.0	38.6	37.8	39.2	40.2	40.6	40.1	39.5	39.3	41.3
中学校																	
中学校	1年	43.2	44.0	43.4	43.3	44.3	43.5	43.7	43.3	44.5	43.8	46.1	44.3	45.1	45.0	45.6	44.2
	2年	48.7	47.0	49.1	47.5	49.2	47.1	49.7	47.8	49.0	46.9	52.6	47.6	50.2	48.0	50.7	48.3
	3年	54.5	49.6	54.4	49.6	54.4	49.6	54.1	49.9	54.8	50.4	56.2	49.9	56.0	49.6	54.9	49.9

II 疾病異常等調査結果

1 学年別疾病異常被患者数

男女別	校種	学年	受診者数	栄養状態		脊柱側弯症・脊柱異常	胸郭異常	四肢異常	裸眼視力				眼鏡・コンタクト装用者	眼疾患			難聴	
				栄養不良	肥満傾向				1.0以上	1.0未満0.7以上	0.7未満0.3以上	0.3未満		感染性眼疾患	アレルギー性眼疾患	その他の眼疾患		
男 子	小学校	1	296	1	3	1			209	57	24	2	11		45	4	2	
		2	294		15				219	38	21	7	17		31	4	3	
		3	287		15				193	40	28	22	12		33	5		
		4	350		25	1			217	41	47	21	38		35	9		
		5	308	2	21	2			183	39	41	25	42		21	9	1	
		6	334		25	1			190	39	43	33	57		30	2		
		計	1,869	3	104	5	0	0	1,211	254	204	110	177	0	195	33	6	
	中学校	1	327		6		2	2	186	25	52	23	55		55	5	3	
		2	316		12	1	2	1	133	47	57	46	62		42	4		
		3	337		9	2	1		130	49	58	47	97		46	3		
		計	980	0	27	3	5	3	449	121	167	116	214	0	143	12	3	
	女 子	小学校	1	295		6				196	62	30	2	11		13	5	1
			2	305		5	1			207	45	36	10	14		22	9	1
3			319		11	3			188	55	47	21	19		18	6	3	
4			286	2	13	1			153	47	42	31	30		22			
5			299		16	5			162	38	53	28	38		11	3		
6			324	1	20	4			149	40	54	39	78		22	4		
計			1,828	3	71	14	0	0	1,055	287	262	131	190	0	108	27	5	
中学校		1	275		2	4		1	118	35	38	40	73		58	7	2	
		2	325		6	1		1	121	22	51	43	126		57	2		
		3	321		4	6		2	102	38	44	43	123		50	8		
		計	921	0	12	11	0	4	341	95	133	126	322	0	165	17	2	

『令和5年度学校保健統計調査』

(注1) 空欄は、該当者なしを示すものである。

計の欄のみ該当者がなしでも0と表記。

(注2) /は調査対象学年でないことを示すものである。

(注3) 健康診断では判定されず、個別受診等で診断され、その結果を学校が把握している場合の人数を含んでいるため、各種検診結果とは数値が異なる。

(単位：人)

耳鼻咽喉疾患			皮膚疾患			結核		心臓		尿 蛋 白 検 出	尿 糖 検 出	その他				歯科及び口腔					
耳 疾 患	鼻 ・ 副 鼻 腔 疾 患	口 腔 咽 喉 頭 疾 患	感 染 性 皮 膚 疾 患	ア レ ル ギ ー 性 皮 膚 疾 患	そ の 他 の 皮 膚 疾 患	結 核	精 密 検 査 対 象 者	心 臓 疾 患	心 電 図 異 常			気 管 支 喘 息	腎 臓 疾 患	言 語 障 害	そ の 他 の 疾 病 ・ 異 常	受 診 者 数	う 歯 処 置 完 了 者	未 処 置 歯 の あ る 者	歯 周 疾 患	歯 列 ・ 咬 合 ・ 顎 関 節 の 異 常	そ の 他 の 歯 ・ 口 腔 の 疾 病 ・ 異 常
52	60	5	1	29	7			1	7	3			16	1	1	293	29	71	1	1	9
55	56	4	1	21	6			1	/	1			8	1	1	294	38	69			3
21	57	8		28	3			1	/	1			6	1	2	285	59	84		1	3
29	44	3		42	4			1	/	1	1		8	3	1	350	67	81	1	4	2
31	43	4	1	28	5		1		/	2	1		9		1	306	67	84	4	3	1
28	52	5		28	7				/	4			5		4	331	80	57	3	4	1
216	312	29	3	176	32	0	1	4	7	12	2		52	3	5	1,859	340	446	9	13	19
37	125	1		31	6			3	9	13			20		6	324	86	45	2	1	2
28	89	2	1	29	2			1	/	16			13		1	319	81	37	4	3	2
29	96	1		22	18			3	/	17	1		12		6	343	88	39	11	4	6
94	310	4	1	82	26	0	0	7	9	46	1		45	0	13	986	255	121	17	8	10
41	41	1	1	30	6			3	6				9			293	46	62		2	3
41	40	9	1	25	5				/				7		2	303	39	70		3	1
33	38	3		18	5		1	1	/	6			12	1	2	322	67	56			2
28	28	5	1	12	4			1	/	1			5			285	60	61		1	1
27	30	4		24	6			2	/	6			4		1	299	75	59	5		
20	32	3		20	2		1	3	/	8	1	1			7	322	86	77	13	8	
190	209	25	3	129	28	0	2	10	6	21	1		38	1	3	1,824	373	385	18	14	7
21	89	2		21	10			5		8			8		3	269	73	53	11	4	3
17	76			18	11			1	/	13			4		2	318	83	48	4	4	1
11	92			20	11			1	/	9	2		6		2	312	95	34	3	4	7
49	257	2	0	59	32	0	0	7	0	30	2		18	0	7	899	251	135	18	12	11

2 学校感染症等による出席停止者数
小学校

病名	月												合計			
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3				
第一種														0		
エボラ出血熱、クリミア・コンゴ出血熱、痘そう、南米出血熱、ペスト、マールブルグ病、ラッサ熱、急性灰白髄炎(ポリオ)、ジフテリア、重症急性呼吸器症候群(SARSコロナウイルス)、中東呼吸器症候群(MERSコロナウイルス)、特定鳥インフルエンザ	22	2												24		
第二種																
新型コロナウイルス感染症(令和5年5月7日まで)	96	18							30	128	209	389	456	669	115	2,110
インフルエンザ																0
百日咳																0
麻疹																0
流行性耳下腺炎		1									1		1	1	5	0
風疹																0
水痘												4	2		7	0
咽頭結膜熱		1						1		1	10	6	3		22	0
新型コロナウイルス感染症(令和5年5月8日以降)		12	24	25		3	91	17		65	65	9		15	339	0
結核																0
髄膜炎																0
第三種																
腸管出血性大腸菌感染症																0
流行性角結膜炎			1							1				1	3	0
急性出血性結膜炎															0	0
コレラ															0	0
細菌性赤痢															0	0
腸チフス・パラチフス															0	0
溶連菌感染症	2	16	29	22			34	51	50	36	32	20			361	0
ウイルス性肝炎															0	0
手足口病			1									1			3	0
伝染性紅斑															0	0
マイコプラズマ感染症															0	0
その他の感染性胃腸炎(ノロウイルス、ロタウイルス、アデノウイルス等)									2						2	10
ヘルパンギーナ			2	8											0	0
帯状疱疹															0	0
その他										1					2	0
合計	120	50	58	55	4	156	198	285	478	564	767	153			2,888	0

『令和5年度学校保健統計調査』
 (注1) 空欄は、該当者なしを示すものである。合計欄のみ該当者がなしでも0と表記。
 (注2) /は調査対象月でないことを示すものである。

中学校

(単位：人)

病名	月												合計	
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3		
第一種														0
エボラ出血熱、クリミア・コンゴ出血熱、痘そう、南米出血熱、ペスト、マールブルグ病、ラッサ熱、急性灰白髄炎(ポリオ)、ジフテリア、重症急性呼吸器症候群(SARSコロナウイルス)、中東呼吸器症候群(MERSコロナウイルス)、特定鳥インフルエンザ	49	3												0
第二種														
新型コロナウイルス感染症(令和5年5月7日まで)	15	2	1	1	1	42	47	131	194	94	209	69	806	
インフルエンザ													0	
百日咳													0	
麻疹													0	
流行性耳下腺炎													0	
風疹													0	
水痘													0	
咽頭結膜熱													0	
新型コロナウイルス感染症(令和5年5月8日以降)		5	17	21	10	87	11	9	7	30	34	18	249	
結核													0	
髄膜炎菌性髄膜炎													0	
腸管出血性大腸菌感染症								1					0	
流行性角結膜炎													1	
急性出血性結膜炎													0	
コレラ													0	
細菌性赤痢													0	
腸チフス・パラチフス													0	
溶連菌感染症		5	1	1		4	4	3	6	5	5	1	35	
ウイルス性肝炎													0	
手足口病													0	
伝染性紅斑													0	
マイコプラズマ感染症													0	
その他										1			1	
感染性胃腸炎(ノロウイルス、ロタウイルス、アデノウイルス等)													3	
ヘルパンギーナ							1						0	
帯状疱疹													0	
その他													0	
合計	64	15	21	23	11	134	62	144	207	130	248	88	1,147	

『令和5年度学校保健統計調査』

(注1) 空欄は、該当者なしを示すものである。合計欄のみ該当者がなしでも0と表記。

(注2) /は調査対象月でないことを示すものである。

3 就学児童疾病異常被患者数

令和5年11月末時点(単位:人)

項		目	男	女	合計	備考	
①		就学予定者数	296	272	568		
②		受診者数	290	265	555		
検 査 項 目	③	栄養不良		1	1		
		肥満傾向	4	2	6		
	④		脊柱の疾病及び異常			0	
	⑤		胸郭の異常			0	
	⑥		皮膚疾患	6	6	12	
	⑦		心臓の疾病及び異常	5	2	7	
	⑧		食物アレルギー	19	20	39	
	⑨	結核	結核性の病気にかかったことがある者			0	
			家族や同居人で結核にかかったことがある者	2	1	3	
			過去3年以内に通算して半年以上、海外に住んでいたことがある者	3	3	6	
BCGの接種を受けたことがある者			236	209	445		
結核検査のための胸部X線撮影をしたことがある者			2	1	3		
⑩	裸眼視力0.3未満 (両目又は、片目が0.3未満の者)		3	5	8		
	眼鏡等装着測定者		8	3	11		
⑪		その他の疾病及び異常	7	1	8		
⑫	歯 病 の 口 腔	処置完了者	30	29	59		
		未処置歯のある者	49	48	97		
	その他の歯・口腔の疾病及び異常		6	8	14		

(注) 空欄は、該当者なしを示すものである。合計欄のみ該当者がなしでも0と表記。

Ⅲ 各種検診検査結果

1 心臓検診検査結果

小学校

(単位：人)

校種	受診者数	有所見者数	有所見者内訳			
			先天性心疾患	後天性心疾患	その他の心疾患	心電図異常
1年生	591	6	4			2
他学年	22	6	1			5
合計	613	12	5	0	0	7

中学校

(単位：人)

校種	受診者数	有所見者数	有所見者内訳			
			先天性心疾患	後天性心疾患	その他の心疾患	心電図異常
1年生	603	11	6			5
他学年	23	4	1			3
合計	626	15	7	0	0	8

小・中学校全体

(単位：人)

校種	受診者数	有所見者数	有所見者内訳			
			先天性心疾患	後天性心疾患	その他の心疾患	心電図異常
小学校	613	12	5			7
中学校	626	15	7			8
合計	1,239	27	12	0	0	15

(注1) 空欄は、該当者なしを示すものである。合計欄のみ該当者がなしでも0と表記。

(注2) 心臓検診検査結果は、疾病異常等調査結果と対象に違いがあるため、数値が異なる。

小学校内訳(学校別・1年生のみ)

(単位:人)

校種	受診者数	有所見者数	有所見者内訳			
			先天性心疾患	後天性心疾患	その他の心疾患	心電図異常
第一小学校	55	1				1
第二小学校	57					
第三小学校	57	2	2			
村山学園 小学部	63					
大南学園 第七小学校	100					
第八小学校	111	2	1			1
第九小学校	48					
第十小学校	57	1	1			
雷塚小学校	43					
合計	591	6	4	0	0	2

中学校内訳(学校別・1年生のみ)

(単位:人)

校種	受診者数	有所見者数	有所見者内訳			
			先天性心疾患	後天性心疾患	その他の心疾患	心電図異常
第一中学校	190	2	1			1
村山学園 中学部	52	3	2			1
第三中学校	103	1				1
大南学園 第四中学校	90	2	2			
第五中学校	168	3	1			2
合計	603	11	6	0	0	5

小学校内訳(学校別・他学年)

(単位:人)

校種	受診者数	有所見者数	有所見者内訳			
			先天性心疾患	後天性心疾患	その他の心疾患	心電図異常
第一小学校	1					
第二小学校	1					
第三小学校	5					
村山学園 小学部						
大南学園 第七小学校						
第八小学校	3	3	1			2
第九小学校	5	2				2
第十小学校	6	1				1
雷塚小学校	1					
合計	22	6	1	0	0	5

中学校内訳(学校別・他学年)

(単位:人)

校種	受診者数	有所見者数	有所見者内訳			
			先天性心疾患	後天性心疾患	その他の心疾患	心電図異常
第一中学校	5	1				1
村山学園 中学部	3	2				2
第三中学校	4	1	1			
大南学園 第四中学校	6					
第五中学校	5					
合計	23	4	1	0	0	3

学 校 名	一 次 検 査 (人)									陽性率 (%)
	検査者数	陽性者数	陽 性 者 内 訳						陽性率 (%)	
			蛋白	糖	潜血	蛋・潜	蛋・糖	糖・潜		
第一小学校	364	30	4		26					8.2
第二小学校	369	27	7		20					7.3
第三小学校	381	17	6	1	10					4.5
村山学園 小学部	344	26	2		24					7.6
大南学園 第七小学校	617	28	1	1	26					4.5
第八小学校	664	37	9	1	27					5.6
第九小学校	262	16	3		12				1	6.1
第十小学校	433	25	1		22	2				5.8
雷塚小学校	280	12	2		9	1				4.3
合計	3,714	218	35	3	176	3	0	0	1	全体 5.9

学 校 名	一 次 検 査 (人)									陽性率 (%)
	検査者数	陽性者数	陽 性 者 内 訳						陽性率 (%)	
			蛋白	糖	潜血	蛋・潜	蛋・糖	糖・潜		
第一中学校	562	54	25	2	23	3			1	9.6
村山学園 中学部	177	17	5		11	1				9.6
第三中学校	331	43	9	1	31	2				13.0
大南学園 第四中学校	308	30	8	1	20	1				9.7
第五中学校	553	59	21	4	33	1				10.7
合計	1,931	203	68	8	118	8	0	1	0	全体 10.5

(注1) 空欄は、該当者なしを示すものである。合計欄のみ該当者がなしでも0と表記。
(注2) 尿検査結果は、疾病異常等調査結果と対象に違いがあるため、数値が異なる。

二 次 検 査 (人)									陽性率 (%)
検査者数	陽性者数	陽 性 者 内 訳							
		蛋白	糖	潜血	蛋・潜	蛋・糖	糖・潜	蛋・糖・潜	
27	5			5					1.4
27	3			3					0.8
16	1			1					0.3
26	6			6					1.7
27	6	1	1	4					1.0
35	4	1		3					0.6
14	4			4					1.5
24	5			5					1.2
12	4			4					1.4
208	38	2	1	35	0	0	0	0	全体 1.0

二 次 検 査 (人)									陽性率 (%)
検査者数	陽性者数	陽 性 者 内 訳							
		蛋白	糖	潜血	蛋・潜	蛋・糖	糖・潜	蛋・糖・潜	
43	8	3	1	4					1.4
16	1			1					0.6
42	8		1	6	1				2.4
30	4		1	3					1.3
54	15	3		12					2.7
185	36	6	3	26	1	0	0	0	全体 1.9

学 校 保 健 統 計 書

令 和 5 年 度

発行年月	令和6年9月
発 行	武蔵村山市教育委員会
編 集	武蔵村山市教育委員会教育部教育総務課 〒208-8501 武蔵村山市本町一丁目1番地の1 TEL 042 (565) 1111 (代表) 内線422・426

令和6年度

全国学力・学習状況調査
武蔵村山市版結果報告書

令和6年9月18日
武蔵村山市教育委員会

【目次】

1	調査の概要	1
2	教科に関する調査の結果	2
3	各教科の成果と課題【国語】	3
4	各教科の成果と課題【算数・数学】	4
5	児童・生徒質問紙調査の結果	5
6	学校質問紙調査の結果	7
7	学力向上関連事業等	9
8	調査問題・正答例・解説資料等（二次元コード）	10
	【参考】令和6年度 武蔵村山市立学校授業改善推進プラン	11
	【参考】武蔵村山市第三次教育振興基本計画（令和4年度～令和8年度） の推進に係る関係委員会の取組及び評価指標等について	13

令和6年度「全国学力・学習状況調査」の結果について

1 調査の概要

(1) 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

(令和6年度全国学力・学習状況調査に関する実施要領より)

(2) 調査の対象学年及び対象児童・生徒数（実施児童・生徒数）

ア 市立小学校 第6学年 9校 587人（566人）

イ 市立中学校 第3学年及び中学部第9学年 5校 656人（592人）

(3) 調査の内容

ア 教科に関する調査（国語、算数・数学）

イ 学習意欲、学習方法、学習環境、生活諸側面等に関する質問調査

ウ 学校における指導方法に関する取組や学校における人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する質問紙調査

(4) 調査の方式

悉皆調査

(5) 調査実施日

ア 教科に関する調査 令和6年4月18日（木）

イ 児童生徒質問紙調査 令和6年4月10日（水）から令和6年4月30日（火）までの間で、各学校の状況に応じて実施

ウ 学校質問紙調査 令和6年4月に実施

(6) 調査時間

ア 小学校 国語、算数 45分 児童質問紙 20分程度

イ 中学校 国語、数学 50分 生徒質問紙 20分程度

(7) 調査結果の活用

児童・生徒一人一人の学習状況の改善に役立てるとともに、各学校における授業の改善、市における学力向上のための施策の充実に役立てる。

2 教科に関する調査の結果

(1) 概要

本市の各校種・各教科の平均正答率は、全国及び東京都の平均正答率を下回っている。ただし、中学校の平均正答率の充足率においては、令和3年度調査（小学校第6学年在籍時）と比較し、各教科で上昇しており、同一学習集団における学力の伸びが見られた。

平均正答率が低い問題については、指導の改善・充実を図り、学習内容を定着させていく必要がある。

(2) 平均正答率 [%] ※ () は全国平均正答率に対する充足率

	小学校		中学校	
	国語	算数	国語	数学
本市	56 (82.7)	52 (82.0)	51 (87.7)	45 (85.7)
都(公立)	70	68	61	57
全国(公立)	67.7	63.4	58.1	52.5

【参考】

校種	小学校		中学校	
	国語	算数	国語	数学
令和5年度	57 (84.8)	53 (84.8)	62 (88.8)	44 (86.2)
令和4年度	53 (80.7)	53 (83.8)	63 (91.3)	42 (81.7)
令和3年度	52 (80.3)	59 (84.0)	57 (88.2)	50 (87.4)
令和2年度				
令和元年度	51 (79.9)	57 (85.5)	69 (94.7)	50 (83.6)

※ 令和2年度調査は、新型コロナウイルス感染症の影響等を考慮し、実施していない。

※ 令和4年度は小・中学校において理科の調査を実施した。

【本市平均正答率】() は全国平均正答率に対する充足率

小学校…54% (85.3%) 中学校…43% (87.2%)

※ 令和元年度（平成31年度）及び令和5年度は中学校において英語の調査を実施し、令和5年度については、「話すこと」調査を実施した。

【本市平均正答率・平均正答数】() は全国平均正答率・平均正答数に対する充足率

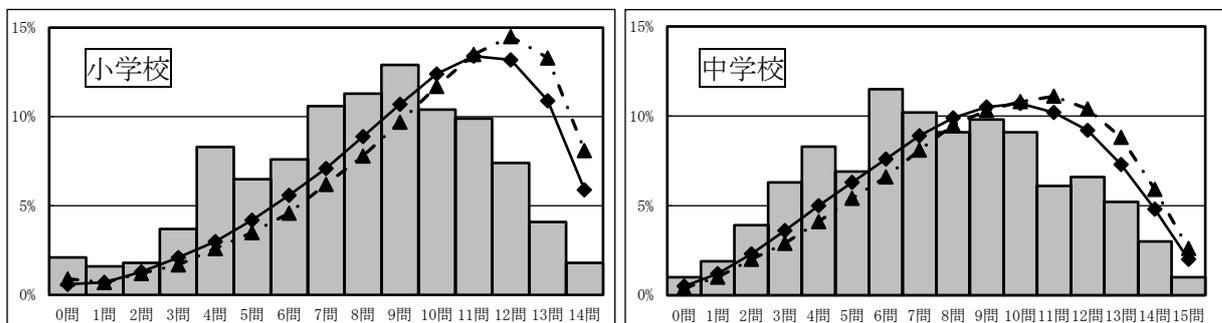
令和元年度 51% (91.0%)

令和5年度 41% (89.9%) 「話すこと」0.4問 (66.6%)

※ 充足率は小数第2位以下を切り捨てた数値で表示している。

3 各教科の成果と課題【国語】

(1) 正答数分布グラフ



※ 横軸：正答数、縦軸：割合

※ 棒グラフ：武蔵村山市 折れ線グラフ▲：東京都（公立） 折れ線グラフ◆：全国（公立）

(2) 平均正答率〔%〕

		学習指導要領の内容					問題形式			
		(1)	(2)	(3)	A	B	C	選択式	短答式	記述式
小学校	市	51.4	84.5	58.0	50.5	59.5	56.6	60.6	42.4	48.9
	都	67.9	88.8	75.3	63.9	69.9	71.9	73.0	63.1	63.7
	国	64.4	86.9	74.6	59.8	68.4	70.7	69.9	59.7	64.6
中学校	市	51.7	56.3	66.7	51.9	53.3	41.2	54.2	55.2	35.9
	都	61.6	62.9	75.7	62.9	67.9	50.8	63.5	64.6	49.6
	国	59.2	59.6	75.6	58.8	65.3	47.9	61.0	61.8	45.5

※ (1)言語の特徴や使い方に関する事項 (2)情報の扱い方に関する事項 (3)我が国の言語文化に関する事項

※ A話すこと・聴くこと B書くこと C読むこと

(3) 成果と課題

【成果】中学校の平均正答率の充足率は、令和3年度調査（小学校第6学年在籍時）と比較し、7.4ポイント上昇している。

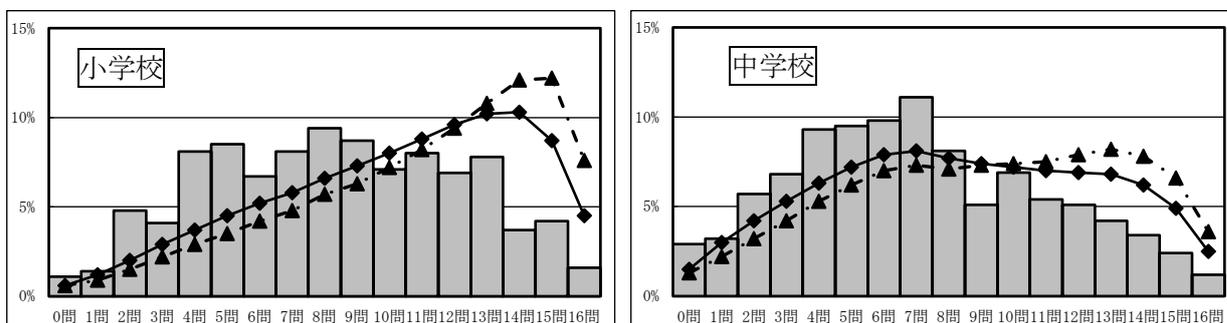
【課題】記述式の問題における無解答率が小学校では26.5%（3三）、中学校では21.8%（3四）で全国及び東京都よりも高い。

(4) 指導の改善が求められる問題

	問題番号	平均正答率〔%〕		問題の概要	出題の趣旨
		市	都		
小学校	3三	市	53.2	【物語】を読んで、心に残ったところとその理由をまとめて書く	人物像や物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることができるかどうかをみる
		都	71.0		
		国	72.6		
中学校	3四	市	33.7	表現を工夫して物語の最後の場面を書き、工夫した表現の効果を説明する	表現の効果を考えて描写する等、自分の考えが伝わる文章になるように工夫することができるかどうかをみる
		都	52.1		
		国	49.3		

4 各教科の成果と課題【算数・数学】

(1) 正答数分布グラフ



※ 横軸：正答数、縦軸：割合

※ 棒グラフ：武蔵村山市 折れ線グラフ▲：東京都（公立） 折れ線グラフ◆：全国（公立）

(2) 平均正答率〔%〕

		学習指導要領の内容				問題形式		
		A	B	C	D	選択式	短答式	記述式
小学校	市	52.9	56.2	42.7	49.0	66.0	50.1	37.5
	都	70.6	70.8	59.3	65.2	79.2	67.6	55.1
	国	66.0	66.3	51.7	61.8	75.3	62.0	51.0
中学校	市	39.9	33.8	54.6	48.4	52.4	59.4	18.9
	都	56.2	46.5	63.5	59.1	62.4	71.3	34.2
	国	51.1	40.3	60.7	55.5	58.5	67.0	29.3

※ A 数と計算（小）、数と式（中） B 図形 C 変化と関係（小）、関数（中） D データの活用

(3) 成果と課題

【成果】中学校の平均正答率の充足率は、令和3年度調査（小学校第6学年在籍時）と比較し、1.7ポイント上昇している。

【課題】記述式の問題における無解答率が小学校では28.4%（5(3)）、中学校では38.2%（9(1)）で全国及び東京都よりも高い。

(4) 指導の改善が求められる問題

	問題番号	平均正答率〔%〕		問題の概要	出題の趣旨
		市	都		
小学校	5(3)	市	28.8	折れ線グラフから、開花日の月について、3月の回数と4月の回数の違いが最も大きい年代を読み取り、その年代について3月の回数と4月の回数の違いを書く	折れ線グラフから必要な数値を読み取り、条件に当てはまることを言葉と数を用いて記述できるかどうかをみる
		都	48.0		
		国	44.0		
中学校	9(1)	市	16.7	点Cを線分AB上にとり、線分ABについて同じ側に正三角形PACとQCBをつくる時、AQ=PBであることを、三角形の合同を基にして証明する	筋道を立てて考え、証明することができるかどうかをみる
		都	33.9		
		国	25.8		

5 児童・生徒質問紙調査の結果

※数値は「よく行った」、「どちらかといえば、行った」等、肯定的な回答の割合（％）

(1) 生活習慣

質問事項 ()は質問番号	小学校第6学年			中学校第3学年		
	市	都	国	市	都	国
(1) 朝食を毎日食べていますか	91.9	93.9	93.7	86.8	90.5	91.2
(3) 毎日、同じくらいの時間に起きていますか。	89.6	91.3	91.6	90.3	92.4	92.5

小学校、中学校ともに、概ね望ましい生活習慣が定着していると考えられる。

(2) 学習習慣

質問事項 ()は質問番号	小学校第6学年			中学校第3学年		
	市	都	国	市	都	国
(21) 学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。	(30分以上) 67.0 83.5 81.6			(1時間以上) 56.9 70.8 64.3		
(22) 土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。	(1時間以上) 33.5 54.8 48.6			(2時間以上) 28.3 40.8 36.2		

家庭学習に主体的に取り組む児童・生徒がいる一方、全体としては、望ましい学習習慣の定着が不十分だと考えられる。

(3) 豊かな人間性等

質問事項 ()は質問番号	小学校第6学年			中学校第3学年		
	市	都	国	市	都	国
(9) 自分には、よいところがあると思いますか。	77.4	84.5	84.1	77.6	83.4	83.3
(11) 将来の夢や目標を持っていますか。	77.8	80.7	82.4	63.2	64.4	66.3
(15) 人の役に立つ人間になりたいと思いますか。	93.5	94.9	95.9	92.6	93.9	95.2
(16) 学校に行くのは楽しいと思いますか。	78.5	84.3	84.8	77.6	83.0	83.8
(25) 地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか。	73.5	80.5	83.5	70.7	72.8	76.1

自己肯定感が醸成され、将来の夢や目標をもって生活している様子が見えてくる。また、地域や社会への関心をもち、貢献したいという気持ちがあることがうかがえる。令和5年度調査との比較では、質問(25)の肯定的回答率は小学校では9.4ポイント、中学校では17.4ポイント上昇している。このことから各校において「まちづくり学習」の推進が図られていることがうかがえる。

(4) 授業等の教育活動

質問事項 ()は質問番号	小学校第6学年			中学校第3学年		
	市	都	国	市	都	国
(30) 前年度までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか。	72.0	81.8	81.9	71.4	80.6	80.3
(32) 前年度までに受けた授業は、自分にあつた教え方、教材、学習の時間などになっていましたか。	75.1	82.5	84.3	73.7	80.5	80.9
(33) 学級の友達(生徒)との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか。	77.4	85.7	86.3	78.5	85.5	86.1

課題解決に向けて、自ら考え主体的に学習に取り組むことや話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり広げたりすることができている児童・生徒の割合は多いが、できていない児童・生徒が約25%いる。

(5) ICTを活用した学習状況

質問事項 ()は質問番号	小学校第6学年			中学校第3学年		
	市	都	国	市	都	国
(27) 前年度までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか。	(週1回以上)			(週1回以上)		
	76.7	88.2	85.5	64.9	91.3	89.0
(28-1) ICT機器を活用することで、自分のペースで理解しながら学習を進めることができる。	75.6	84.5	85.5	69.7	78.4	80.2
(28-5) ICT機器を活用することで、自分の考えや意見を分かりやすく伝えることができる。	68.3	79.0	79.2	64.8	76.9	77.7
(28-6) ICT機器を活用することで、友達と考えを共有したり比べたりしやすくなる。	73.6	85.7	86.1	71.7	84.9	86.2

ICT機器を活用することが様々な場面で役立つと考える児童・生徒は約70%程度いる。今後は小・中学校において、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図り、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を推進するため、授業における活用頻度を高めていく必要がある。

6 学校質問紙調査の結果

※数値は「よく行った」、「どちらかといえば、行った」等、肯定的な回答の割合（％）

(1) 授業等の教育活動

質問事項 ()は質問番号	小学校第6学年			中学校第3学年		
	市	都	国	市	都	国
(25) 授業では、児童生徒が課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができていると思いますか。	77.8	89.1	88.2	80.0	89.9	88.4
(34) 前年度までに、習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫をしましたか。	66.6	88.0	87.4	80.0	83.7	86.6
(35) 前年度までに、各教科等で身に付けたことを、様々な課題の解決に生かすことができるような機会を設けましたか。	88.9	86.5	85.7	60.0	78.7	78.6

(2) ICTを活用した学習状況

質問事項 ()は質問番号	小学校第6学年			中学校第3学年		
	市	都	国	市	都	国
(小56・中60) 前年度までに、児童・生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、授業でどの程度活用しましたか。	(週1回以上) 100 99.7 99.2			(週1回以上) 100 98.1 98.5		
(小58・中62) 児童・生徒が自分の考えをまとめ、発表・表現する場面では、児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか。	(週1回以上) 66.7 91.1 83.6			(週1回以上) 60.0 84.6 82.1		
(小61・中65) 児童・生徒が、自分の特性や理解度・進度に合わせて課題に取り組む場面では、児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか。	(週1回以上) 77.7 89.3 83.6			(週1回以上) 80.0 79.4 74.0		

(3) 家庭や地域との関わり

質問事項 ()は質問番号	小学校第6学年			中学校第3学年		
	市	都	国	市	都	国
(69) (小学校) 職場見学を行っていますか。 (73) (中学校) 前年度に、職場体験活動を何日程度行いましたか。	(行っている) 33.3 37.4 43.2			(1日以上) 100 93.0 76.1		
(小70・中74) コミュニティ・スクールや地域学校協働活動等の取組によって、学校と地域や保護者の相互理解は深まりましたか。	88.9	87.5	88.9	80.0	84.6	84.1

一人1台端末を効果的に活用し、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図り、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善について、研修等を通じて教員の意識を高めていく必要がある。職場体験を行っているという回答した学校の割合が、全国の平均を上回っており、生徒が自分の将来の姿を意識できるようにしている。

(4) 全国学力・学習状況調査結果の活用

質問事項 ()は質問番号	小学校第6学年			中学校第3学年		
	市	都	国	市	都	国
(小74・中78) 令和5年度全国学力・学習状況調査の自校の結果について、調査対象学年・教科だけではなく、学校全体で教育活動を改善するために活用しましたか。	100	96.8	96.8	100	94.5	94.1
(小75・中79) 全国学力・学習状況調査の結果を地方公共団体における独自の学力調査の結果と併せて分析し、具体的な教育指導の改善や指導計画等への反映をどの程度行っていますか	100	93.3	92.8	100	90.5	89.3
(小76・中80) 令和5年度全国学力・学習状況調査の自校の結果について、保護者や地域の人たちに対して公表や説明をどの程度行いましたか(学校のホームページや学校だよりなどへの掲載、保護者会等での説明を含む)	100	93.1	89.5	60.0	84.3	83.2

全校が、全国学力・学習状況調査の自校の分析結果を全教職員で共有する等して、学校全体で教育活動を改善するために活用している。

全国学力・学習状況調査の結果を市学力調査の結果と併せて分析し、指導の改善等に活用していることについて、肯定的な回答をした学校の割合が全国平均を上回っており、学力向上に向けた検証改善サイクルの機能を効果的に生かしている状況が見られる。

保護者や地域の人たちに対して自校の調査結果を公表・説明することについて、肯定的な回答をした中学校の割合が全国及び東京都平均を下回っている。

7 学力向上関連事業等

(1) 武蔵村山市第三次教育教育振興基本計画より（一部抜粋）

主要施策	概要
学力調査の実施	児童・生徒の学力向上を図るために、「児童・生徒の学力向上を図るための調査（市調査）」、「全国学力・学習状況調査（国調査）」を実施し、成果を検証するとともに、課題の把握・分析をします。
授業改善推進プランの作成・活用	国、本市の学力調査の結果及び児童・生徒の実態等に基づき、各学校において「授業改善推進プラン」を作成し、授業の質的向上を図るとともに、児童・生徒一人一人の学力向上を目指します。
小学校漢字検定の実施	小学校4年生及び6年生の児童に、学力向上策の一環として、市独自の漢字検定を受験させることにより、目標に向かって努力する態度を育むとともに、学習習慣の定着を目的として実施します。
中学校英語検定の実施	中学校3年生の生徒に、学力向上策の一環として、英語検定を受験させることにより、目標に向かって努力する態度を育むとともに、学習習慣の定着を目的として実施します。
個に応じた指導の実施（少人数指導・習熟度別指導・チーム・ティーチング）	児童・生徒の学習意欲の向上や学力の向上を図るため、少人数指導、習熟度別指導、チーム・ティーチング等による個に応じたきめ細やかな指導を実施します。
教育ボランティアの派遣	小・中学校で教科学習や様々な体験活動等を実施するに当たり、支援者として地域からボランティアを募り、その方の知識・技能の提供を受けることにより、学校教育の一層の充実を図るとともに、地域に開かれた学校づくりに寄与します。
小学校補助教員の派遣	市内全小学校に多様な経験を有する方を補助教員として派遣し、その知識、経験を児童の指導等に活用することにより、一人一人に目の行き届いた教育の実現に資するとともに、地域で学校を支える体制づくりを支援します。

※令和6年度より補助教員は「エディケーションアシスタント」に名称変更

(2) 令和6年度学力向上推進委員会の取組について（趣旨）

令和5年度に実施した市学力調査の算数・数学において、記述により解答する問題の無解答率が小学校第4学年は46.4%、中学校第1学年は58.7%であった。学力向上推進委員会においてはこの結果を受け、今年度の方針を、「算数科・数学科において課題の把握や追究の過程を記述することを通して、問題解決への見通しをもち、筋道を立てて考え、表現できる能力を育むとともに、難しい課題にも粘り強く取り組もうとする姿勢の向上を図る。」とした。

これを踏まえて各校において、記述する力及び粘り強く取り組む姿勢を児童・生徒（小学校第4・第5学年、中学校第1・第2学年対象）に身に付けさせるために、①記述する力等を育てる取組、②武蔵村山チャレンジ2024（算数・数学）を実施する。

8 調査問題・正答例・解説資料等（二次元コード）

(1) 教科に関する調査

ア 小学校

教科	調査問題	正答例	解説資料
国語			
算数			

イ 中学校

教科	調査問題	正答例	解説資料
国語			
数学			

(2) 質問紙調査

校種	児童生徒質問紙	学校質問紙
小学校		
中学校		

【参考】令和6年度 武蔵村山市立〇〇〇学校 授業改善推進プラン 教科名 **国語**

国語科における指導の重点(身に付けさせたい力) ※学習指導要領に照らし合わせて

ア 知識及び技能	イ 思考力、判断力、表現力等

	児童・生徒の学力の状況(課題)	授業における具体的な手だて	成果検証(2月)
第〇学年	ア イ	ア イ	ア 市学力調査【知識・技能】 イ 市学力調査【思考・判断・表現】 所見
第〇学年	ア イ	ア イ	ア 市学力調査【知識・技能】 イ 市学力調査【思考・判断・表現】 所見
第〇学年	ア イ	ア イ	

■「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた一人1台端末等 ICT の効果的な活用について

〇年：
〇年：
〇年：

■学習の見通しをもたせることや学習を振り返ることの工夫等、「学びに向かう力」の育成に向けた取組について

〇年：
〇年：
〇年：

【参考】令和6年度 武蔵村山市立〇〇〇学校 授業改善推進プラン 教科名 **算数・数学**

算数科・数学科における指導の重点(身に付けさせたい力) ※学習指導要領に照らし合わせて

ア 知識及び技能	イ 思考力、判断力、表現力等

	児童・生徒の学力の状況(課題)	授業における具体的な手だて	成果検証(2月)
第〇学年	ア イ	ア イ	ア 市学力調査【知識・技能】 イ 市学力調査【思考・判断・表現】 所見
第〇学年	ア イ	ア イ	ア 市学力調査【知識・技能】 イ 市学力調査【思考・判断・表現】 所見
第〇学年	ア イ	ア イ	

<p>■「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた一人1台端末等 ICT の効果的な活用について</p>	<p>■学習の見通しをもたせることや学習を振り返ることの工夫等、「学びに向かう力」の育成に向けた取組について</p>
<p>〇年:</p> <p>〇年:</p> <p>〇年:</p>	<p>〇年:</p> <p>〇年:</p> <p>〇年:</p>

【第三次教育振興基本計画について】

武蔵村山市教育、学術及び文化の振興に関する総合的な施策の大綱／武蔵村山市第三次教育振興基本計画 P.24 より
教育基本法第17条第2項の規定に基づき、国の「第3期教育振興基本計画」を参酌するとともに、「東京都教育ビジョン（第4次）」を踏まえ、市の実情に応じた教育の振興のための施策に関して総合的かつ計画的な推進を図るために定める基本的な計画です。また、本計画は、「武蔵村山市第五次長期総合計画」に示す本市の将来都市像「人と人との絆をつむぐ 誰もが活躍できるまち むさしむらやま」を実現するための学校教育分野及び生涯学習分野における計画であり、本市の教育の方向性を定める教育大綱の視点に基づき、教育分野の目標を具現化する最上位計画に位置付けられます。本市及び教育委員会は、本計画に基づき、計画的に主要施策、主要事業の実現に取り組めます。さらに、本計画の推進に当たり、持続可能な開発目標(SDGs)のゴール（国際目標）に留意して教育施策を推進します。

【基本方針】

- 1 生きる力を育む教育の推進
- 2 学校・家庭・地域の連携・協働の推進
- 3 教育の質の向上と教育環境の整備
- 4 自己実現を目指す生涯学習の推進
- 5 教育財産の有効活用の推進



【学力向上策の推進】

《確かな学力の定着》

令和6年度重点

- 「全国学力・学習状況調査」並びに東京都及び本市による「児童・生徒の学力向上を図るための調査」等を通して、児童・生徒の学力の定着状況及び「学びに向かう力」等に関する意識を把握・分析します。
- 各学校が学力に関わる諸調査の結果及び授業評価に基づいて「授業改善推進プラン」を作成し、授業の質的改善を図るとともに、基礎的、基本的な知識・技能の確かな定着を図るなど、確かな学力の定着を目指します。また、児童・生徒一人一人に確かな学力を身に付けさせる基盤となる学習意欲の向上及び学習規律の確立を図るため、自由な心を伸ばし、長所を引き出す指導、児童・生徒に向上心を高く持つ指導など、常に指導方法を工夫・改善し、子供の特性や習熟の程度に応じた学習集団を編成するなど、指導体制の工夫・改善に努めます。
- 学力向上策の一環として、小学校漢字検定及び中学校英語検定を実施します。
- 変化の激しい時代を生き抜き、生涯にわたり主体的に学び続ける児童・生徒を育成するために、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善に取り組み、質の高い授業の展開を図ります。
- 家庭での学習が困難又は、学習習慣が十分に身に付いていない児童・生徒を対象に、地域住民等の協力により「地域未来塾」事業を推進し、学習支援を実施します。
- 少人数指導、習熟度別指導、チーム・ティーチングやGIGAスクール構想の推進による一人1台端末を活用するなど、個別最適化の学びを実現し、個に応じた指導に努めます。
- 小・中学校で教科学習や様々な体験活動等を実施するに当たり、地域のボランティアの方の知識・技能の提供を受けることにより、学校教育の一層の充実を図るとともに、地域に開かれた学校づくりの充実を図ります。
- 市内全小学校に多様な経験を有する方を補助教員として派遣し、一人一人に目の行き届いた教育を実現するとともに、地域で学校を支える体制づくりに努めます。

《現状》

令和5年度小学校第4学年の市学力調査の結果
平均正答率 国語…49.7% 算数…47.0%
記述式無解答率 国語…33.9% (3問) 算数…46.4% (2問)
(国語…問題3)3、6)2、7) 算数…問題15)3、16)
令和5年度中学校第1学年の市学力調査の結果
平均正答率 国語…53.8% 数学…51.6%
記述式無解答率 国語…24.6% (3問) 数学…58.7% (2問)
(国語…問題3)3、6)3、7) 数学…問題16)3、17)
※今年度の市学力調査は令和6年12月10日(火)実施予定

《評価指標》

- ☑ 令和6年度市学力調査にて、小学校第5学年・中学校第2学年の国語及び算数・数学の平均正答率が同一学習集団の前年度値(小4・中1時)を上回っている。
 - ☑ 令和6年度市学習調査にて、小学校第5学年・中学校第2学年の国語及び算数・数学の記述により解答する問題の無解答率が、同一集団の前年度値(小4・中1時)を下回っている。
- ※市学力調査は小学校第4・第5学年、中学校第1・第2学年で実施するが、同一学習集団の経年変化の数値を評価の指標として用いることとする。

《令和6年度学力向上推進委員会における取組》

- 1 名称
武蔵村山チャレンジ2024(算数・数学)
- 2 方針
算数科・数学科において課題の把握や追究の過程を記述することを通して、問題解決への見通しをもち、筋道を立てて考え、表現できる能力を育むとともに、難しい課題にも粘り強く取り組もうとする姿勢の向上を図る。
- 3 対象学年及び対象教科
小学校第5学年・算数及び中学校第2学年(中学部第8学年)・数学
※通常学級在籍児童・生徒を対象とする。
- 4 取組
(1) 各校において「目的や意図に応じて、理由を明確にしなが、自分の考えをまとめて書く」ことの能力の向上が図られるよう授業改善推進プランと連動させた取組を計画・実施する。
(2) 市内全小・中学校対象児童・生徒が「武蔵村山チャレンジ2024」(算数科・数学科の記述式問題)に取り組む。
- 5 実施時期
令和6年11月1日(金)から令和6年12月5日(木)まで(実施日は各校で設定)
- 6 学力向上推進委員会の予定
第1回 令和6年4月15日(月) 取組み内容の把握、役割分担決め等(第2回までに「問題用紙」、「解答用紙」、「模範解答」の原案を作成)
第2回 令和6年9月3日(火) 難易度調整、校正等
第3回 令和7年2月25日(火) 令和6年度の取組結果について(報告)

【豊かな心を育む教育の推進】

《人権教育の推進》

令和6年度重点

- いじめ防止対策推進条例に基づき、いじめの未然防止及び早期発見、早期解決に向けた取組を推進します。また、あらゆる偏見や差別をなくすため、全ての教育活動を通して人権教育を推進するとともに、学校・家庭・地域、関係機関と連携し、児童・生徒にいじめは絶対に許されないことを徹底して指導します。
- 性別、年齢、障害の有無、国籍、宗教及び価値観などは多様であることを理解し、相互に尊重する態度や行動を促すダイバーシティ教育を推進します。

《現状》

令和5年度市内小・中学校のいじめ発生件数
小学校…134件 中学校…27件 ※速報値
令和5年度いじめ防止等の対策の取組状況(実施率)
軽微ないじめを見逃さない…78.5%
教員一人で抱え込まず、学校一丸となって取り組む…70.3%

《評価指標》

- ☑ ふれあい月間の実施後調査(11月)の「いじめ防止等の対策の取組状況」において、全校が「いじめやいじめの疑いのある事例について、学年や学校いじめ対策委員会に対処方針や役割分担を協議している」と回答する。
※本項目において令和5年度市内小・中学校の実施率は64%

《令和6年度人権教育推進委員会における取組》

- ☑ 「いじめ防止対策推進法」に基づき、学校全体でいじめ防止及び早期発見に努めることができるよう、取組を推進する。
- ☑ 地域の特徴に応じた人権課題を取り上げ、講義や研修を行う。
- ☑ 各校の取組についての情報交換の時間を設け、いじめ未然防止、早期発見について効果的な取組を共有する。

【健康な身体や体力を育む教育の推進】

《体力向上策の推進》

令和6年度重点

- 児童・生徒一人一人の体力の向上及び健康の保持増進を図るため、学校・家庭及び地域が連携した体力向上策を推進します。
- 東京都教育委員会と連携し、体力テストを実施し、「体力向上全体計画」を作成するとともに、体育授業の改善に役立てます。
- 各校の「体力向上全体計画」を踏まえ、体力の向上及び健康の保持増進を図るため、体育の時間内で運動量を増やなど、指導法の工夫・改善を図ります。

《現状》

令和5年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果について
総合評価「C」以上の割合 ※ () は前年度
小学校第5学年 中学校第2学年
男子…57.6% (54.7%) 男子…65.2% (59.5%)
女子…61.6% (60.8%) 女子…73.1% (73.6%)

《評価指標》

- ☑ 令和6年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査(小学校第5学年・中学校第2学年)において、総合評価「C」以上の割合が令和5年度との比較で上昇している。(体力向上推進校)
※ 同一学習集団での比較とする。

《令和6年度体力向上推進委員会における取組》

- ☑ 体力向上推進優秀校・体力向上推進校顕彰の周知強化(積極的参加の促進) ※ 調査実施率80%未満の場合は対象外となる。
- ☑ 「東京都児童・生徒体力・運動能力、生活・運動習慣等調査」のデジタル化に伴う結果の分析・活用の促進
- ☑ 実技指導講習会(スポーツ体験会)の実施
- ☑ 各校の体力向上策好事例の共有

令和6年度武蔵村山市立学校研究発表会について

令和6年9月1日現在

研究指定	発表校	日 時	研究主題	講 師	発表内容
【市】 令和5・6年度 特色ある学校づくり推進校	第九小学校	令和6年 11月22日(金) 13時15分から 16時00分まで	自ら課題を見付け、協働しながら解決できる児童の育成 ～地域の材を生かした生活・ 総合的な学習の時間の指導～	國學院大學 人間開発部初等教育学科准教授 三田 大樹 先生 白百合女子大学 特別専任教員(准教授) 根本 裕美 先生 他3名	授業公開、研究発表 及び講師講演
【市】 令和5・6年度 特色ある学校づくり推進校	第八小学校	令和7年 2月7日(金) 13時35分から 16時15分まで	分かった！できた！使えた！を実感できる児童の育成 ～算数科における見方や考え方を大切にして～	国立教育政策研究所 教育課程研究センター 教育課程調査官 笠井 健一 先生	授業公開、研究発表 及び講師講演

第 19 回地区ふれあいスポレク大会の開催について

- 1 主 催 武蔵村山市教育委員会
- 2 主 管 4 地区ふれあいスポレク大会実行委員会
- 3 開 催 日 令和 6 年 10 月 20 日（日）※雨天の場合、縮小開催予定

4 地区区分

- 中藤地区 17 自治会（鍛冶ヶ谷戸、谷津、入り、向山、神明、中藤団地、原山、原山第一、萩ノ尾、中村第一、中村第二、中村第三、馬場、横田、日の出、新海道、平和台第一）
- 西部地区 10 自治会（三ツ藤、村山道下、山王森、峰、後ヶ谷戸、宿、残堀、伊奈平、岸、中原）
- 南部地区 15 自治会（しののめ、平和台第二、マイホームランド玉川上水、大南五丁目、大南、上水台、第 2 ブロック、1101、1110 号棟、1111 号棟、1112、緑が丘第一、緑が丘第二、緑が丘第 3、緑が丘第 5、）
- 北部地区 13 自治会（雷塚、学園、むさしの宿舎、第 6 ブロック、武蔵村山団地第 8 ブロック、村山団地第 11 ブロック、12 ブロック、緑が丘第六、緑が丘第 7、緑が丘第 8、緑が丘第九、緑が丘第 11、村山団地 42 号棟）

5 スポレク大会会場及び実行委員会

区分 地区名	会 場	実行委員会役員		
		実行委員長	副実行委員長	会計
中藤地区	第一中学校校庭 (午前 9 時開始)	佐藤 真言 (スポーツ協力員連絡会会長)	内野 正義 (谷津自治会長) 内野 洋一 (スポーツ協力員連絡会副会長)	浦野 朋子 (スポーツ協力員) 小林 充子 (スポーツ協力員)
西部地区	総合運動公園運動 場第 2 運動場 (午前 9 時開始)	岩田 孝子 (スポーツ協力員連絡会会長)	鈴木 徹也 (三ツ藤自治会長) 有田 順一 (中原自治会長) 斎藤 大樹 (スポーツ協力員連絡会副会長) 高橋 良行 (スポーツ協力員連絡会副会長)	加藤 綾 (スポーツ協力員) 国谷 恵 (スポーツ協力員)
南部地区	大南公園野球場 (午前 9 時開始)	松田 匡 (スポーツ協力員連絡会会長)	川本 隆良 (平和台第二自治会長) 小林 徹 (スポーツ協力員連絡会副会長)	藤原 美幸 (スポーツ協力員連絡会副会長) 橋口 大介 (スポーツ協力員)
北部地区	雷塚公園野球場 (午前 9 時開始)	川島 良夫 (スポーツ推進委員)	岡本 忠治 (スポーツ協力員連絡会会長)	金山 ふみ子 (スポーツ協力員連絡会副会長) 富田 弘恵 (スポーツ推進委員)

6 プログラム (案)

	中藤地区	西部地区	南部地区	北部地区
会場	第一中学校校庭	総合運動公園運動場 (第2運動場)	大南公園野球場	雷塚公園野球場
1	開会式 (9時)	開会式 (9時)	開会式 (9時)	開会式 (9時)
2	ミニ・グラウンドゴルフ	ホールインワン競争	ウルトラクイズ	グラウンドゴルフフリー
3	パン食い	あけてびっくり!?	あけてびっくり! り!?	パラソル輪投げ
4	玉入れ	おててつないで	キッズレース	バルーンでゲット
5	みーつけた!	みんなの玉入れ	ホールインワン 大会	お宝つり
6	じゃんけん大会	ウルトラクイズ	じゃんけん大会	お山の大将
7	閉会式	閉会式	閉会式	閉会式

※ 各地区、企画委員会にて検討している。

第 5 1 回武蔵村山市民駅伝競走大会の開催について

- 1 主 催 武蔵村山市教育委員会
- 2 期 日 令和 6 年 1 2 月 8 日 (日) 小雨決行
 午前 8 時 選手受付 (総合体育館)
 午前 9 時 開会宣言 (総合体育館駐車場)
 午前 9 時 4 5 分 スタート (女子の部、小学生男子の部、小学生女子の部、中学生男子の部、中学生女子の部)
 午前 1 0 時 スタート (一般の部、地域の部)
 午後 0 時 3 0 分 表彰式及び閉会式
 (総合体育館第一体育室)

- 4 コー ス 市内 2 周・6 区間 1 4 . 7 5 k m (別紙コース図参照)

区間	始点 ~ 終点	距離
1 区	総合体育館前～宿交差点左折～田島内科クリニック	2.95 k m
2 区	田島内科クリニック～大曲り交差点折返し～市役所前	1.50 k m
3 区	市役所前～宿交差点右折～市道 1 7 号線折返し～総合体育館前	2.80 k m
4 区	総合体育館前～第 1 運動場入口折返し～宿交差点左折～田島内科クリニック	3.20 k m
5 区	田島内科クリニック～大曲り交差点折返し～市役所前	1.50 k m
6 区	市役所前～宿交差点右折～市道 1 7 号線折返し～総合体育館前	2.80 k m

- 5 参加資格 市内在住・在勤・在学者 (小学 4 年生以上) で構成されるチーム

- 6 編 成 1 チーム 1 0 人以内 (監督 1 人、選手 6 人、補欠 3 人以内)
 ※ 監督は、選手を兼ねることができる。(小学生・中学生の部の監督は、成人とし、選手を兼ねることはできない。また、補欠競技者はなるべく登録すること。複数チームでの参加の場合、補欠選手の重複は認めるが、複数チームでの出場は認めない。)

7 部門及び募集数

部門	内容
一般の部	事業所、学校、クラブ等に所属する者で編成されたチーム (男女混合も可)
地域の部	同一自治会内に居住する者で編成されたチーム (男女混合も可)
女子の部	高校生以上の女子で編成されたチーム
小学生男子の部	小学生男子で編成されたチーム (男女混合も可)
小学生女子の部	小学生女子で編成されたチーム
中学生男子の部	中学生男子で編成されたチーム
中学生女子の部	中学生女子で編成されたチーム
特別参加チーム	姉妹都市栄村村民等主催者が認めた団体により編成されたチーム

※ 募集数は、先着140チームとする。

- 8 申込み (1) 申込期間 令和6年10月3日(木)から同月17日(木)まで (定員になり次第終了)
(2) 申込方法 所定の申込用紙に必要事項を記入の上、スポーツ振興課へ持参する。
- 9 参加料 (1) 一般の部、地域の部、女子の部 1チーム 6,000円
(2) 小学生男子の部、小学生女子の部、中学生男子の部、中学生女子の部、特別参加チームは無料。
※ 参加料は、令和6年11月29日(金)の監督会議で納入する。気象状況による大会中止や、チーム事由により大会を棄権した場合など、納入後の返金はしないものとする。
- 10 表彰 (1) 各部門の優勝から第3位までのチームに賞状及びメダルを贈る。
(2) 各部門とも区間の最高記録者には、区間記録賞を贈る。
(3) 原則として参加チームが、3チーム未満の部門はオープン参加とし、表彰は行わない。
- 11 監督会議 令和6年11月29日(金) 午後7時から
中部地区会館(市役所4階) 401大集会室

大会コース図

区間・距離

- | | |
|--------------|------------------------------------|
| 1区 (2.95 km) | 総合体育館前→宿交差点左折→田島内科クリニック |
| 2区 (1.50 km) | 田島内科クリニック→大曲り交差点折返し→市役所前 |
| 3区 (2.80 km) | 市役所前→宿交差点右折→市道17号線折返し→総合体育館前 |
| 4区 (3.20 km) | 総合体育館前→第1運動場入口折返し→宿交差点左折→田島内科クリニック |
| 5区 (1.50 km) | 田島内科クリニック→大曲り交差点折返し→市役所前 |
| 6区 (2.80 km) | 市役所前→宿交差点右折→市道17号線折返し→総合体育館前 |
| 総距離：14.75 km | |

